

研究テーマ：スピークアウトがスムーズにできるようになるにはどのように指導すればよいか

所属 窪川町立興津中学校

氏名 濱中 里香

R G J H 9

【アクションリサーチⅠ】

(1) 研究の背景

1年生6名、2年生3名、3年生4名、計13名の小規模校である。1年生は、かなり手をたさなければ基礎的な事柄が定着しづらい生徒がいる。2年生は授業規律ができており、ゲームなどを取り入れた取組や、書く作業なども意欲的に取り組むことができる。3年生は1～2年生の復習を取り入れながら授業を進めている。男子1名は、時により授業にあまり積極的に参加できないこともある。

A L Tは週に1日の訪問となっている。ゲームなどを取り入れたものが多く、A L Tとの授業をほとんどの生徒は楽しんで受けている。

(2) リサーチクエスト

A L Tとの会話のなかで、A L Tが言っていることはほぼ理解できているが、言いたいことが十分に言えない生徒がほとんどである。単語を言うのが精一杯で、その単語すら出てこない生徒もいる。単語は知っているのに、スピークアウトができていないのが切実な現状である。こういう理由から「スピークアウトがスムーズにできるようになるにどのように指導すればよいか」を研究テーマに選んだ。

(3) 仮説の設定

1. 仮説

- ① A L Tとの授業の際には物語を読み、会話を重点的に扱う。
- ② 重要表現を暗記し、スムーズに言えるようにする。
- ③ インタビューテストを行う。

2. 実践の方法

- ① 物語を英語で読み終わった後、内容について質問したり感想を発表させる。日本の物語などを使うと、生徒たちは内容がわかっているので英語が理解しやすい。また、身の周りにあることについて会話練習なども行う。
- ② 重要表現を暗記して言えるようにする。その後フラッシュカードや絵を使い、スムーズに言えるようにする。
- ③ 単位ごとにインタビューテストを行う。各学年の文法事項に合わせて英語で質問する。ある事柄について、説明をしたり、尋ねたりする。『自分の名前』『住んでいるところ』『好きな食べ物』『部活について』など。

【アクションリサーチⅡ】

(1) 計画の実践

- ①は、1学期に引き続き、日本の物語を英語にしてもらい、各学年別に難易度を変えて読んでもらった。3年生にはイギリスの物語も1つ紹介した。
- ②も継続して基本文を暗記し、単語を入れ替えたり、主語を入れ替えたりして練習した。ゲーム形式で黒板に書く競争なども取り入れた。
- ③のインタビューテストは学期末に1度、1人5分程度行った。そしてアンケートにある『名前』『住んでいる所』『好きな食べ物』などについてどれだけ伝えられるかを練習した後、テストをした。

(2) 結果の検証

- ①全学年を通して、日本の物語を英語で読む（聞く）という取組は楽しんでできた。自分が知っている内容を英語で聞いた時に、分からない部分を聞き飛ばしても全体がわかるので安心感があると思う。
- ②1年生は1つの基本文を暗唱することが難しい生徒が数名いる。課題をクリアできた生徒に次の課題を用意することもあった。2、3年生は基本文を使い、いろいろな事柄を自分なりに表現することができるようになってきた。しかし、どの学年にも書く作業が難しい生徒がいる。
- ③インタビューテストは前回の反省を活かすことができず、1回の実施しかできなかった。『自分の名前』『年齢』『住んでいるところ』など10項目にわたり、自分のことについてどれだけ相手に伝えることができるか、という練習とテストをした。1学期のアンケートと比べると「できる」と答えている生徒数が増えている。

(3) 成果と課題

- ①生徒たちが知っている日本の物語を簡単な英語で読むという取組は、英語が苦手な生徒にとっても楽しい活動だったようで、またやってほしいという感想が多かった。『浦島太郎』『桃太郎』『クラゲとサル』『幸せな王子』を扱ったが、よく知っている『浦島太郎』『桃太郎』は取りかかりが良かったが、『クラゲとサル』はあまり知られていないため反応が悪かった。『幸せな王子』は3年生だけに読んだ。課題としては、学年に応じてさらに難易度を変え、わかりやすく、短めに物語を作りかえる必要があると感じた。文章だけではわかりにくい場面は、絵を加えると効果的だと思われる。
- ②基本的な文法事項を反復練習するためにゲームを用いた。ゲームで勝つためには、何度も基本文を言わなければならないようにして活動した。楽しさもあって、その時は文章を言うことができるが、次の時間になると言えない、書けない生徒もいる。その生徒には授業後の休み時間を使って復習をしているが、さらに放課後の時間なども使い、補習をする必要があると感じている。
- ③インタビューテストは、学期に1度しかできなかったのが反省である。クラス全体に質問すると「私は答えなくてもいい」と思っている生徒もいるが、1対1のテストでは「自分が答えなくてはならない」と思い、答えようとする姿勢が見られたことが成果としてあげられる。全学年とも課題としては、単語1語で答えられるようになれば、2語から3語、そして次第に文章へとつながるような練習ができる取組を考えなくてはいけないこと、また英語への興味・関心を持たせ続けられるような授業の工夫をすることが重要だと改めて感じた。